

子育てひとくちメモ14, 「子どもの成長と勇気づけ」

幼児期の特徴と勇気づけ

言葉が出たら幼児です。言葉というのは「単語が二つある文＝二語文」です。「あれ取って」とか「ごはん食べる」などです。だいたい3歳くらいからでしょう。単語一個では十分お話ができませんが、二語文になると意志の疏通ができます。記憶も良くなって、これまであったことを覚えていられます。これより前は、何事が起こっているかわかっているけれど、記憶できません。ただ、この子たちは記憶の力はできますが、予測の力がまだないです。これをすると結局どうなるかがわからない。それですごく危ないことを平気でやります。ほんのちょっとだけ危ないことを体験すると、「これをやると痛いんだ」と学んで、次からはしなくなります。ワクチン効果と言います。でも、「マンションの5階から飛び降りたらどうなるかな」と、飛び降りたら困ります。ですから、致命的な大怪我をさせないように注意することが、大人の大切な責任です。

(つづく)

(津山工業高校スクールカウンセラー：大森 浩)